

経営比較分析表

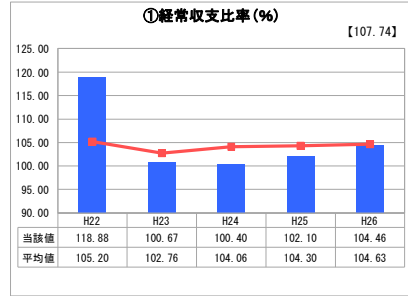
埼玉県 川越市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	76.53	87.26	68.56	1,566

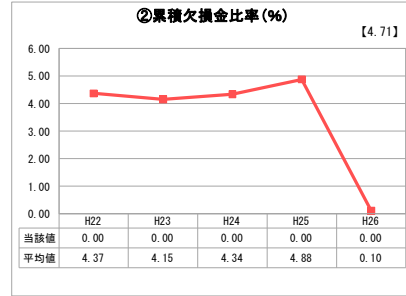
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
349,378	109.13	3,201.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
304,885	36.39	8,378.26

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 平成26年度全国平均

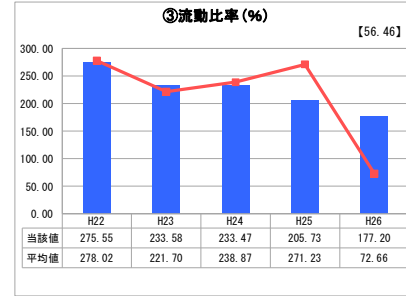
1. 経営の健全性・効率性



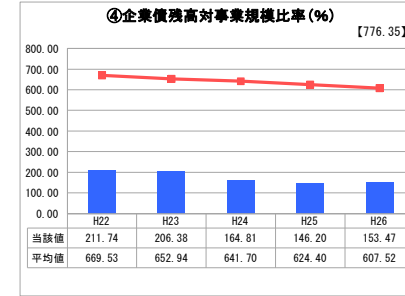
「経常損益」



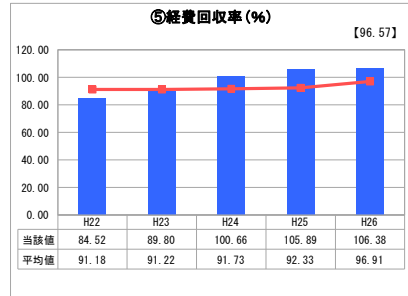
「累積欠損」



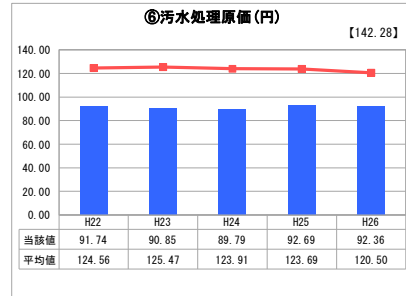
「支払能力」



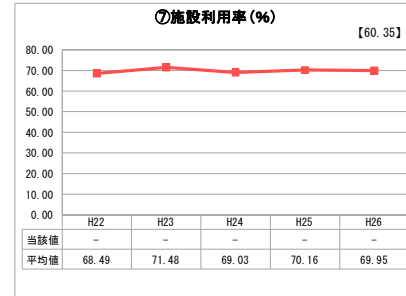
「債務残高」



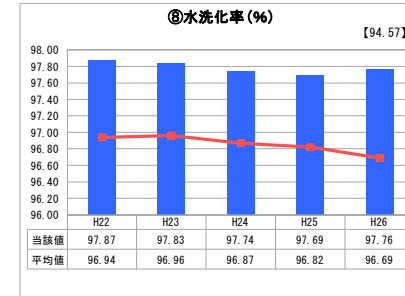
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

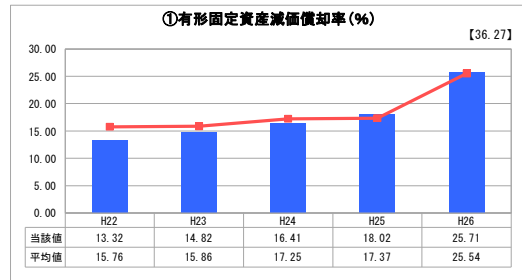


「施設の効率性」

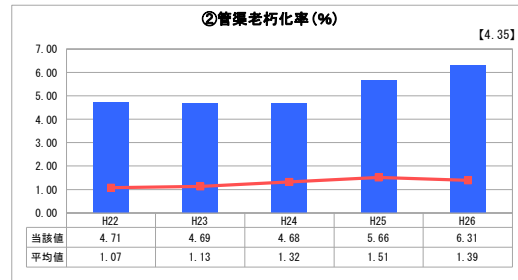


「使用料対象の捕捉」

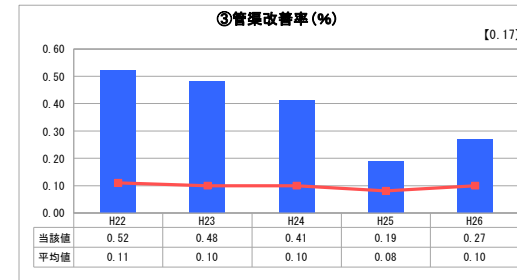
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

全般的に、経営の健全性は保たれている。平成21年度から平成24年度まで行った使用料改定により、経常収支比率や経費回収率が改善している。企業債残高対事業規模比率は類似団体と比較してかなり低い数値となっており、将来負担が少なくなっているが、必要な事業量が確保できているか検証する必要がある。

2. 老朽化の状況について

川越市の公共下水道は供用開始からの経過年数が長く、施設全体の老朽割合が高まっている。管渠についてもこの傾向は明らかであり、老朽化率も高いにもかかわらず改善(更新)のスピードが遅いことが分かる。

全体総括

現時点での経営状況は良いものの、長期的な更新計画を再検討して収支計画を見直していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。